

一つの世界めざし まず国連を改組

世界連邦大会 東京宣言採択し閉幕

東京上野の東京文化会館で開かれた第十一回世界連邦会議。採択、午後四時半、四日間続いた大会最終日の二十七日は、全体大会を閉幕した。各国代表は京都会館で「世界連邦世界協会の改組」を討議のあと、国連を世界連邦に改組

「東京宣言」を「国連」を改組し、国連への提案などを採択する。この日の大会は午前九時半、片山哲、北村徳太郎、スタンレー(米)ウィンガデン(オランダ)の各氏を議長に選び、前日行なわれた「平和維持」「経済」「道徳」「青年部会」の四つの分科会の報告のあと、午後三時半まで「世界連邦への進」と題して討論され、各代表が締めくくりの発言をした。

続いて大会が全世界に呼びかける「東京宣言」の発表に移り「国連は世界連邦に改組されるべきである。われわれは人類が生き残るために世界連邦を全世界の政府が組織とするよう勧告する」として世界法を作り、戦争なき一つの世界を作ろうとウィンガデン氏、リッポフスキー夫人(ハル山

田節男氏の三人が大の公用語である英、仏、日の三ヶ国語で宣言を力強く読み上げ、満場の拍手で採択した。続いて東京支部の婦人たちが作った日本人形、マリ、手袋などがおみやげとして各外国代表に贈られ、北村大会準備委員長の閉会のあいさつで四日間の大会の幕を閉じた。

一、人類は世界法が世界戦争の二者択一を迫られている。われわれは東京における歴史的な第十一回大会での真実を深い信念を持って表明する。核実験禁止条約は小さくとも重要な措置であるが地下実験の危険もいぜんとしてあり、人類はいまなお全面的破壊の危険に直面している。ともに世界法を作るか、さもなければともに滅びていくことになるだろう。われわれは手を携えて「戦争なき一つの世界」を打ち立てる。①国連はすべての国をその成員とする世界連邦に改組されるべきである。それは次のような諸権能を持つ。②いかなる国も他国にたいして軍隊を使用できないこと。③および核兵器はじめすべての国防兵器、軍隊の廃止を定めた世界法。④世界法の施行を決定させるための保障措置。

あすから京都総会

二十七日に幕を閉じた世界連邦会議世界大会に引きつぎ、二十九日、三十日の両日は舞台を京都に移し、京都会館で世界連邦世界協会の総会を開く。第一日目(二十九日)は午前十時から開会式を行ない、世界協会の湯川秀樹会長、C・M・スタンレー議長、マリヤリエ事務総長らがあつちし。午後から総会では「東京宣言」が出された提案や今後の活動方針などを審議する。

c084-016-021

会議には同協会副会長のアトリー元英領事館長をはじめ、東京裁判で日本の無罪を主張したインドのパール判事もランラン・ネル夫(ネル首相夫人)ら、十九カ国から百六十三人の外国代表、日本から百六十八人、あわせて四百二十余人が参加する。なお、一行は二十八日午後二時五十分京都駅着。第二日はあつちし入浴。同夜は午後五時から京都国際ホテルで京都市、京都府議所共催のレセプションにのぞき、ひきついで同六時半から大会近畿準備会主催の歓迎会が開かれる。